

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670900135
法人名	社会福祉法人 隼仁会
事業所名	グループホーム はやひと
訪問調査日	平成19年6月20日
評価確定日	平成19年7月16日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670900135
法人名	社会福祉法人 隼仁会
事業所名	グループホーム はやひと
所在地 (電話番号)	鹿児島県大口市青木3023番地14 (電話) 0995-22-2333

評価機関名	シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成19年6月20日

【情報提供票より】(19年5月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.3人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	鉄骨造陸屋根二階造り	
	2階建ての	階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1380 円	

(4) 利用者の概要(5月28日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 89.7歳	最低	82歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大口温泉リハビリテーション病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、住宅と田園に囲まれた医療・福祉の複合施設群の一角に位置している。ホームでの暮らしは、地元の入居者・地元の職員からなるその土地ならではの食事・会話・習慣からなり、地域で住まい続ける変わらぬものが残っている。健康管理については、ホーム内に限らず母体法人を中心に24時間いつでも医療面でのサポートを受けられる体制になっており、安心して快適な暮らしが支えられている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 法人理念を踏まえて、事業所独自の理念が職員全員で作成されており、理念の実現のために、ケアの現場でも日頃から意識して行動している。市町村との連携については、市と管内事業所との意見交換の中から、情報共有を目指すための事業所連絡会の発足に至っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が自己評価に関わり、日頃のケアに対しての振り返りを行いながら、より良い方向へ改善しようとする意識が持たれている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、入居者・ご家族代表、地域住民、行政職員等が毎回参加され、ホームの現状や外部評価について触れられており、改善へ向けた取り組み状況報告の他に、出席者からの意見も取り入れられ、有意義な話し合いの時間となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族の来訪時や家族会、便りなどを使い情報の共有が図られている。人目に配慮した場所に意見箱を設置したり、運営推進会議の委員である家族代表者により、他のご家族の意見や要望が伝わる体制ができるなど、様々な方法での取り組みがなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会や学校行事へ参加したり、認知症予防教室の開催や幼児学級の子供たちをホームに招く等、地域との関係を深める努力がなされている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の言葉にはできない思いを実現するべく、法人全体の理念を踏まえ、職員全員で話し合いの上、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有するため日々の唱和を行い、ケアの現場では互いに注意し合い、毎月の会議の場で事業所全体としての振り返りの時間を設けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃から散歩コースとして地域へ出かけたり、自治会や学校行事へ参加したり、認知症予防教室の開催や幼児学級の子供たちをホームに招く等、努力しているが、地域の皆さんに気軽に立ち寄っていただける状況には至っていない。	○	建物の位置や構造上の条件もあるが、案内板等の工夫により、地域の方々が気軽に立ち寄れる環境づくりが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や活かし方を十分に認識しており、職員全員が自己評価に取り組むことで日頃のケアへの振り返りがなされ、外部評価と合わせて改善へ向けた取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者・ご家族・地域住民・行政と地域のあらゆる分野の方々が毎回参加され、ホームの状況・外部評価への取り組み等について活発に意見交換され、サービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とも現状課題の共通認識を持っており、地域の事業所と市町村担当者を合わせた事業所連絡会の立ち上げも行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の際には、写真や書類等を使い日頃の暮らしぶりや健康状態、金銭出納について報告確認を行っている。定期的な家族会の開催や便りの発送もなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見箱の活用や面会の際に意見聴取が行われている。運営推進会議の委員でもある家族代表者を通じて、他のご家族の意見や要望が伝わるような体制もできている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新たな職員が入職する際には入居者・ご家族に紹介し、職員の多い日勤帯において、時間をかけて業務を理解し、入居者との馴染みの関係を構築するよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画が作成され、法人内研修、外部研修ともに積極的に参加しており、ミーティング等の時間を使い、参加できなかった職員へも内容の報告を行っている。	○	職員の経験年数や習熟度に応じた教育プログラムの作成が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業所との個別の連絡・相談関係を発展させ、保険者を含めた事業所連絡会を発足させている。	○	今後さらに、実践的な勉強会や相互訪問等の交流・連携の機会に発展されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者やそのご家族との話し合いはもちろん、ホーム内の見学や必要に応じて宿泊機会を設ける等、暮らしぶりや入居者・職員と馴染みの関係がつけられるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員からの一方的な関わりにならないよう、入居者のこだわっていることや楽しみを生活の中に取り入れながら意欲を引き出し、職員も入居者から学ぶ姿勢を持って接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向を聞きとることはもちろん、日頃の生活の様子やご家族からのお話を記録として残し、入居者の思いを捉えるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者・ご家族から、これからの暮らしについての意向を基に原案が出され、サービス担当者会議での検討を経た上で、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングを基に3カ月に1回の見直しが行われ、職員の気づきや状態の変化によっては、随時計画の変更が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要時の外来受診や、医療連携体制を活用した定期的な看護職員からの健康管理、共用型デイサービス等の多機能性を活かして、切れ目のない流動的な支援がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の必要性に応じて、納得の上での受診が行われ、かかりつけ医との良好な関係がつけられており、受診状況についても十分に把握されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りに関するマニュアル作成や重度化への体制も取られており、入居者・ご家族が望む暮らしへの意向を尊重できるように、かかりつけ医とも方針の共有に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法や守秘義務について徹底するようにミーティングで話し合わせ、日常のケアの現場でも、さりげない言葉かけに努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の生活に大体の決まりごとはあるものの、それにとらわれず、その日どのように過ごしたいかを入居者に尋ねて柔軟に対応できるような体制をとっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を考慮した献立をつくり、旬の食材を使うことで季節感を演出し、入居者・職員の他に、時にはご家族も交えて食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホーム側で決められた予定もあるものの、入居者の意向やその日の状態で毎日入浴できる体制がとられ、体調不良時でも清拭や足浴対応など個別的なケアが行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や日頃の会話からの気づきを活かし、これまでの生活での楽しみや役割を、今後も継続できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	馴染みの場所や馴染みの人をつくり、地域との繋がりを持ちながら、入居者それぞれが、季節感・楽しみ・喜びを感じられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に施錠されることはなく、外出の意向があるか、入居者の話やしぐさを観察しながら、閉鎖的な生活にならないように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体とホーム単独での防災訓練を、入居者も参加して実施しており、誘導方法、避難器具の点検・操作方法の習得等、実際に想定した実践的な訓練や話し合いが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好調査を基に献立作成されており、法人の管理栄養士による確認も行われている。食事・水分量の他、体重チェックの記録がまとめられており、状態の悪い入居者に対しては、特別なプログラムを立てる等、個別ケアに取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類や装飾品による心配りや、光の強弱、音の大小といった環境面に充分配慮され、季節の花々をしつらえることで、心地良い空間が演出されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用されてきた家具類や日用品が持ち込まれており、入居者それぞれが個性的な居室をつくられており、居心地の良いスペースとなっている。		